

『中國文學報』總目錄

(第六十二冊～第七十冊)

1 總記			
評點遡源	張伯偉		63
人生識字憂患始——中國讀書人の憂愁——	川合康三		67
書評：松原朗著『中國離別詩の成立』	川合康三		67
書評：宮崎法子著『花鳥・山水畫を読み解く——中國繪畫の意味——』	西村富美子		68
紹介：本邦漢籍目錄書目	山口謠司		68
紹介：本邦漢籍目錄圖録及び解題編書目	山口謠司		70
2 先秦・漢代文學			
「三閭大夫」考——あわせて楚國公族の興衰について——	李零		62
語り得ぬものへのことば——『莊子』における言語問題と言説への意識について——	鈴木達明		66
蒼梧考	大野圭介		68
「悲劇の星雲」との格闘——文學としての『史記』研究序説——	谷口洋		70
3 魏晉南北朝文學			
峴山の涙——羊祜「墮淚碑」の繼承——	川合康三		62
田園と時間——陶淵明〈歸去來兮辭〉論——	渡邊登紀		66
文學言語としての「看」と六朝詩歌——意味の變遷と唐詩への流れ——	堂蘭淑子		66
六朝の謝啓について	道坂昭廣		69
書評：佐竹保子『西晉文學論——玄學の影と形似の曙——』	青山剛一郎		64
書評：加藤國安著『越境する庾信——その軌跡と詩的表現』	稻垣裕史		70
4 隋唐文學			
音の傳承——唐代における樂譜と樂人——	中純子		62
擬古詩の變遷について——陸機から李白まで	辛夏寧		63

成熟と老いの詩學認識——杜甫から歐・梅まで	綠川英樹	63
詩人と傳記作者——盧藏用が抱いた文學觀と陳子昂の形象化——	永田知之	64
元結の敘景と敘情	好川聰	64
唐宋古文における「氣」の説と「雄健」の風	副島一郎	65
李德裕と平泉莊	二宮美那子	67
『隋書』文學傳の人びと——隋代の南朝由來の文人たちをめぐって——	原田直枝	68
山水畫のテキスト化——『永州八記』を例とした分析——	梁敏兒	68
晩唐の詠史詩	伊崎孝幸	69
東方朔から孫悟空へ	氏岡眞士	70
書評：松本肇著『唐宋の文學』	五皓（川合康三・西上勝・淺見洋二・乾源俊・和田英信）	62
書評：賈晉華『唐代集會總集與詩人群研究』	齋藤茂	64
書評：笈文生著『唐宋文學論考』	孫昌武	65
書評：竹村則行著『楊貴妃文學史研究』	駱玉明	67
書評：赤井益久著『中唐詩壇の研究』	愛甲弘志	69
書評：衣若芬『觀看・敘述・審美——唐宋題畫文學論集——』	淺見洋二	69
紹介：中國における唐代文學研究のいくつかの情況について	董乃斌	69
5 宋代文學		
朱子語類論文篇譯注（八）	興膳宏・木津祐子・齋藤希史	62
文學之樂——梅堯臣晩年の唱和活動と「樂」の共同體——	綠川英樹	65
汪元量の「湖洲歌」九十八首について	稻垣裕史	67
6 宋代文學		
『水滸傳』成立考——内容面からのアプローチ	小松謙	64
『水滸傳』成立考——語彙とテクニカル・タームからのアプローチ——	高野陽子・小松謙	65

7 明代文學				
弘治本西廂記について	土屋育子			68
書評：田仲一成『明清の戯曲』	高橋文治			63
書評：大木康著『馮夢龍『山歌』の研究——中國明代の通俗歌謡』	伊藤徳子			66
8 清代文學				
『聖諭』宣講——教化のためのことば——	木津祐子			66
9 現代文學				
或る女性の影——周作人の文學的出發——	森雅子			69
「不朽」の修辭學——胡適・コスモポリタニズム・白話詩——	福嶋亮大			69
10 比較文學				
高麗朝における杜詩受容——李奎報を中心にして——	鄭墾謨			69
義堂周信の杜甫受容について	尙永亮			70